

## 第2号議案

### 令和2年度 事業計画 及び 収支予算

#### 【 事業計画 】

当会の令和2年度（2020年度）事業計画としては、新型コロナウイルスの世界的な拡大により、東京オリンピック・パラリンピックが翌年度へ延期となったため、当会にとりこれまで最大規模となる特別大規模警備支援の事案が持ち越しとなり、加えて、定時総会・激励会を含めて6月までの総ての理事会・朝食講演会などの諸行事が、開催方法の変更・延期・中止を余儀なくされることとなった。

こうした中でも、恒例の諸活動については、極力着実に実施していきたい。具体的には、各種警備活動・災害警備への支援、全国にわたる交流激励会の開催、朝食講演会の開催などについて、更に充実したものとしていく。また、会員数が再び減少基調にある中で、会の存立基盤の再構築に向けて、引き続き、新規会員獲得の活動を強力に推進していく。

#### ① 機動隊員に対する活動支援

##### ・災害警備を含む各種警備支援

大規模支援としては、例年通り、広島平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典、更には、基地反対運動が通年で継続している沖縄に対する警備支援を実施していく。

また、近年、大規模な地震・風水害が頻発する傾向にあるが、災害警備支援にも、効率的かつタイムリーに対応すべく、本部・支部間の連携・調整にも務める。

##### ・文化体育活動

全国優秀機動隊員として警察庁警備局長から表彰された約100名の機動隊員による海外警備事情研修については、コロナウイルス拡大により、前年度に延期を余儀なくされた分も含めて、警察庁とも緊密に連携しつつ、その実施方法を検討していく。

##### ・機動隊員をはじめとする警察の各種行事への激励・支援

機動隊観閲式・警備訓練、更には武道大会などの各種行事に当会役員や会員が出席し、これを激励する。特に支部段階での各種行事への参加を一段と活発化させるべく、本部から支部への支援を強化していく。

#### ② 弔意・見舞い活動

全国殉職警察職員・警察協力殉難者慰霊祭に理事長が出席するほか、機動隊員が警備中または訓練中に殉職・負傷された場合、弔意・見舞い活動を行う。

#### ③ 普及・啓蒙活動

機関誌「はげまし」については、新型コロナウイルス拡大に伴う大規模警備事案・相当規模の訓練などの減少により、5月については休刊を余儀なくされることから、年10回の発行とし、引き続き、その内容充実に努めると共に、本部・支部の総会・激励会などについて、広く活動状況をPRする。また、会員・機動隊員双方にとっての「読者参加型」の企画を増加させていく。

当会のホームページについては、都度の話題を速やかに掲載するなど、その内容充実に努めていく。また、創設40周年の記念事業の一環として開始した過去の総会の機関誌のホームページへの掲載については、その後の新規分の掲載も継続していることから、会員・警察警備部門の方々には、広くご参照・ご活用頂きたい。

#### ④ 朝食講演会

コロナウイルスの拡大により、4月と5月の朝食講演会の中止を余儀なくされたので、年8回（6月と8月を除く）開催し、その講演録を機関誌「はげまし」に掲載することで、全国の機動隊員及び会員の知見に役立てる。幸い出席数は90名前後と高水準で推移しており、今後も若手層をはじめとする出席数のさらなる拡大を図ると共に、魅力ある講師の探索につき、会員各位のアドバイスを求めていく。

#### ⑤ 組織の強化活動

新「中国四国支部」発足総会が、コロナウイルスの拡大により令和元年度には延期となったことから、本年度こそこれを確実に開催し、当会として四国だけが「空白地域」であるという長年の課題解消を果たしたい。しかしながら四国地域での会員数は若干名に止まっているのが実情であり、まずは会員数の拡大を図った上で、警備支援は勿論、警察諸行事への参加を順次進めていくこととしたい。会員の皆様には、こうした厳しい実態を是非ご理解頂き、新支部に相応しい陣容と運営を整えるべく、会員拡大による支部活動の充実に特段のご協力をお願いしておきたい。

会員の異動状況としては、平成29年度を個人会員拡大強化期間と位置づけ、役員・会員の皆様が熱意ある活動を展開して頂いた結果、年度末では、個人会員は1,000名の大台を回復し、会員総数でも1,355会員と大幅な増加となった。しかしながら、会員の皆様の真摯な取り組みの一方で、退職・退任、高齢、死亡を事由とする退会が続出しているのも事実であり、令和元年度上期末時点で、会員総数で1,306会員、個人会員も981名と再び大台割れとなっており、減少基調に歯止めがかからないのが実情である。

ご承知の通り、当会は発足以来47年目を迎えるが、この長い歴史の中で、個人会員の着実な伝承・若返り化と、新規分野も含めた法人会員の拡大が遅れていたものと深く反省しているところであり、新規会員獲得が永遠の課題であることを改めて強く認識して、会員拡大活動に取り組んで行くべく、会員の皆様の従来にも増したご理解・ご協力をお願い申し上げる次第である。

## 【 収支予算 】

令和2年度(2020年度)の収支予算としては、会員減少基調にあっても新規会員獲得によるリカバリーを前提として、会費収入は対前年度予算比で70万円の減少に止めると共に、朝食講演会参加料の値上げと賛助広告料の拡大を織り込み、経常収益としては、50万円増収の53,700千円とした。一方、消費税率引き上げの中にあっても、精一杯のコスト絞り込みを進めることとして、事務所移転に伴う賃料84万円の引き上げを織り込んでも、53,700千円となり、当期経常増減額としては、例年同様収支均衡予算とした。

なお、令和元年度においては、全国優秀機動隊員の海外警備事情研修について、コロナウイルスの拡大に鑑み、急速これを延期することとしたが、令和2年度における実施の可否、及び実施時期・方法について、不透明要素が多いため、本予算ではこれを織り込んでおらず、通常の1回分の海外研修のみを計上している。また事業計画で述べた通り、朝食講演会開催、機関誌発行についても、令和2年度に入りすでに中止を余儀なくされているが、その後の影響が不透明であるため、予算上は、当初計画通りの開催・発行で計上している。

また令和2年度においても、念の為、1,000万円を限度として、「はげまし基金」の取崩し枠を設定することとする。

## 【 資金計画 】

・平成30年度(2018年度)	：	特別大規模支援積立資産の計上	22,506	千円
・令和元年度(2019年度)	：	特別大規模支援積立資産の計上	900	千円
		(総計)	23,406	千円)
	：	特別大規模支援積立資産の取崩	10,000	千円
		(総計)	13,406	千円)
・令和3年度(2021年度)	：	特別大規模支援積立資産の取崩	約 8,000	千円

(令和3年度末に特別大規模支援積立資産に残額がある場合は、「はげまし基金」などに繰り入れの予定)

## 2020年度収支予算

(特別寄附収入を除く)

科 目	(単位:円) 2020年度予算	(参考)		2018年度予算
		2019年度予算	20予算-19予算	
経常収益				
受取会費	34,600,000	35,300,000	△ 700,000	35,600,000
講演会参加料	4,400,000	3,500,000	900,000	3,500,000
激励会参加料	9,000,000	9,000,000	0	9,000,000
賛助広告料	5,500,000	5,200,000	300,000	5,200,000
受取寄付金			0	
雑収益	200,000	200,000	0	200,000
			0	
経常収益計	53,700,000	53,200,000	500,000	53,500,000
経常費用				
弔慰見舞金	0	0	0	0
大規模警備支援費	1,000,000	1,000,000	0	1,500,000
特別大規模警備支援費	0	15,000,000	△ 15,000,000	0
文化体育活動援助費	8,100,000	8,100,000	0	8,400,000
交流激励会活動費	17,250,000	17,450,000	△ 200,000	17,200,000
機関紙発行費	6,000,000	5,900,000	100,000	5,900,000
カレンダー発行費	1,150,000	1,150,000	0	1,150,000
会議費	5,600,000	5,600,000	0	5,700,000
給与手当	7,000,000	7,000,000	0	7,000,000
福利厚生費	1,200,000	1,200,000	0	1,200,000
旅費交通費	2,200,000	2,200,000	0	2,000,000
通信運搬費	700,000	700,000	0	700,000
消耗品費	700,000	900,000	△ 200,000	700,000
新聞図書費	210,000	250,000	△ 40,000	250,000
印刷製本費	150,000	150,000	0	250,000
賃借料	1,740,000	900,000	840,000	850,000
諸謝金	400,000	400,000	0	400,000
租税公課	70,000	70,000	0	70,000
支払手数料	200,000	200,000	0	200,000
雑費	30,000	30,000	0	30,000
経常費用計	53,700,000	68,200,000	△ 14,500,000	53,500,000
当期経常増減額	0	△ 15,000,000	15,000,000	0
当期一般正味財産増減額	0	△ 15,000,000	15,000,000	0